

会 議 録

1 会議名

平成27年度第5回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

平成27年6月23日（火）午後6時00分から午後7時23分まで

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員： 増田和昭（会長）、竹内明美（副会長）、池田伸吾、泉 秀夫、
伊藤邦雄、今井不二子、小林克美、田村利男、田村雅春、福島 弘、
町屋隆之、丸山朝安、三上正子（欠席4名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任

8 発言の内容

【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【増田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：福島委員、丸山委員に依頼
- ・議題「直江津まちづくり構想について」事務局へ説明を求める

【荒木係長】

資料「新水族館を中心とした直江津のまちづくり構想の検討について（案）」に基づき
説明

【増田会長】

事務局の説明に対して意見等を求める。

【町屋委員】

2回の意見交換開催について、参加は2回目からでも良いという流れを見て、2回目から来た人は入りづらいと思うがまず一つ。

2回目のグループ分けをして行う意見交換は、1回目の結果を受けて2回目を行うということだと思うがどうもしっくりこない。例えば、グループのメンバーや、テーマが、きちんと出来たあとに行うのなら分かる。

【増田会長】

1回目は分かるが、2回目のイメージが湧かないということだが、事務局から説明していただきたい。

【荒木係長】

1回目の意見交換でどのような意見が出てくるのか。1回目は皆さんが思っていることを出していただき、2回目は1回目に出てきたテーマを整理して、それに対して実際にどうしていったらいいかという議論をしていただく、というイメージをしている。

ただ、2回目から参加される方は違和感があると思うが、1回目にどのような話をしたかを説明して、新たな意見があれば、それを取り込んでいこうと考えている。

【町屋委員】

提案に近いのだが、1回目の時、例えば、グループで8人ずつ、6グループになるとする。現状の課題と取組ということであれば、本来、一番良いのは、こちらからテーマを出して、これに対してこうしたいと言いたいのが一つ。

例えば、一つのグループでいろいろな意見が出てきて、その意見を否定しない、全部汲み上げるけど、同じような意見が出てきて、より深い議論にはならない可能性がある。それを受けて、たぶん、1回目に来た人は2回目も同じグループがいいと思う。「私が思う課題はこうだね」とか。もっと言うと、先ほどから事務局で「課題と取組」と説明されている。「1回目の時も課題と取組を出してもらって」と言うが、出来ることなら、課題を出す時間と、取組を考える時間を分けていくほうが、「今こういうことが問題」という問題認識をして、その出てきた問題認識について、確認するような取組をしたほう

がよい。課題と取組を全部同じ時間に出すと、結局その人の中の完結した話が出てくるだけだと思う。他の人が「それ問題だね」と思った時に出しづらいということがあるので、もう少し、具体的に内容を考えて作り込んでいただきたいというのがある。

【荒木係長】

取組までという話をしたが、まずは、まちを元気にするために、どんなことが必要か、どんな課題があるかというのが第一だと思っている。取組については次の段階の話かと思うが、進め方としては、今言われたとおり、そちらのほうが整理しやすいとは思っている。

【泉委員】

たぶん、時間的な制約がすごくあるので、結果としてこの時間内で収めようとする、今言われたような、課題を提案しながら、その中で問題点の意見交換をするという方法をとらないと収まらないと思う。でもそれだと全く意図していることが違うのではないかと思う。今、事務局が言ったように、まず課題は何があるのか、ということを一回目でする。そうすると時間的にはこの中に収まらないで、きっと来年まで掛かる。

【町屋委員】

私は、課題と取組を分けていただきたいと言っている。

【泉委員】

そうすると、そもそもの「まちづくり」というものを、市民の皆さんと話をするという趣旨からずれていってしまう。元々は、我々全員の話、この中まで知っている訳ではないが、そこをどういうふうに市民の皆さんが考えているのか、どういう希望があるのかというランダムなものを絞り出しておいて、そこで、2回、3回、4回と繰り返しながら絞っていくというイメージなのかなと私は思っている。どちらを取るかである。この中で収めようとする、課題を絞り切れず、「まちづくり」ではなくて、水族館に対する要望で終わってしまう。

【田村雅春委員】

高田と直江津の中心市街地の違いは、地主さんの数である。まちづくりをする上で、借地の場合はいろいろな問題点がある。そういうところまで踏み込まざるを得ないのか。今の雁木や歩道などについて、五智の動線は少しいいと思うが、街中の西本町とかの動線や昔の細い道は価値ある貴重な財産だと思っているが、整備が出来ないのは、そういうタブーがあるのかと思う。その辺はどうなのか。

【町屋委員】

タブーでもなんでも無いと思う。それが弊害だと言われるのは分かるが、例えば、デコボコを一つ取っても、結局は、皆さんがここで話しても、出来ることと出来ないこと、すべきこととすべきではないことがあって、個人の裁量にまでは踏み込めない。段差のデコボコはその家のものなので、段差のデコボコを直したかったら、「直すべきだ」と提案は出来る。「造り直す時は一緒に直しましょうよ」という提案は出来るが、直すか直さないかは、個人の問題だから言えない。

地主さんたちがたくさんいて、開発に邪魔になっているという話をしても、それは話の向かう場所が別で、例えば、「直江津の街に映画館がない、映画館が必要ではないか」と言っただけで、映画館をやる人がいるか、いないかというのはビジネスの問題で、それは個人の問題。それと同じように、そういう運動とか、「もっとこうしたことは出来るよね」という発言は出来ても、具体的に何かをしましょうとなった時は、その家のビジネスの話になってしまう。商店街のアーケードもそうである。行政がお金を出して造るなら別だが、そうではない場合、結局自分たちのお金でやってくださいという話になれば、結局、市民のニーズと、やらざるを得ない、お金を出さなきゃいけない人たちのニーズは別ものになってしまう。

【田村雅春委員】

何故、先ほどの話をしたかというのと、やはり街中に入って、水族館に行ってほしいし、帰りに五智の通りを通ってもらえるような動線を作りたい。

【泉委員】

それは、田村雅春委員が考えている動線。今の段差の話もそうである。お金がなくて、古い街中のものが、また見直されて、それで成功している街もある。また、賑やかな街と言うけど、みんな賑やかな街を望んでいるのか。閑静な街を望んでいる人もいる。だからその辺は聞いてみないと分からない。今、私たちの中で「こうだ、ああだ」と言っているだけである。そういうものを選択する場が第1回目という話になると思う。

【町屋委員】

何故この話をしたかと言うと、例えば資料に「年齢構成に偏りがあるようであれば、例えば青年会など補完したい…」と書いてあるが、働き世代の現役の方たちに来てもらって、これをやった時に「結局今日は何だったのか」となってほしくない。求めていることをきちんと明確にしてもらわないと、結論の出ないよくあるワークショップで終わったと思われるのが非常に嫌である。それが大事だという事であれば、それはそれで大

事だということをきちんと明示していただきたい。では、まちづくりの問題点は何かという今もそうである。雁木が問題、歩道のデコボコが問題、もっと言えば、活性化がいいのか、閑静な住宅街がいいのか。まちづくりの問題は何かといったら、本当に右から左と広いから、そうであれば、同じ考え方の人たちでまとまったほうが話は進むのと、そうではなくて、各テーブルに色々な考えの人たちがいる時には、同じ思いの人たちがいないので、話は浅めに止まる訳である。

私は、深さを求めるのであれば、同じ考え方の人たちが集まったほうが、話が深まると思う。

【増田会長】

事務局の説明をもっと端的にしないと、たぶん良く理解していないと思われる。

この意見交換会で求めているのは、「話し合おう」ではなく、又「解決策を見つけ出そう」ということでもない。その誤解があると、皆さんがリーダー役になるのだが、しっかり理解してもらわないといけない。当日、班に分けて今の話をするつもりは全くない。

【丸山委員】

この資料に課題が書いてあって、前から話しているとおおり、「水族館を中心としたまちづくり」ということだから、水族館に人がいっぱい来た方が良さだろうし、街そのものも賑やかになる。

【竹内副会長】

このチラシをいただき、「こういう会があるから活用して、直江津の街を良くしたい、だから気付いたこととか、困っていることとかあったら、みんなで意見を言ってもらいたい」といって実施した場合に、私は自分の所属しているグループのことを考えながら言っているのだが、この説明だと分からなくて、私も「こういう会がある」と言って仲間にチラシを配れない。だから、もう少し分かりやすく、もっと気楽にみんなで「こういうふうに感じている」ということを言ってもらいたい、困っていることがあったら「話し合おう」なのだから、気楽に市民が参加出来るような感じにしていきたい。

【増田会長】

これは事務局の指示でやるのではなく、委員の皆さんが主体的になって市民とどう関わるかという会なので、考えに縛られることは全くないので、実際に自分が話し合いのリーダーになった時に、「私はリーダーとしてこうやって進めたい」と思っていることを、

ここで皆さんに「それでいい、そうだよね」という共有の場にしないと、リーダーによってやるのが違ふと非常に困る。そういうことを今日は事前に皆さんに理解してもらふという場を作ったつもりである。

【今井委員】

私も困っているのだが、1回目はどの辺まで議論するのか、課題を見つけ出すということなのか。

皆さん、それぞれの思いを話す、それを紙に書いて貼ってもらふ、その中で課題が見えてくる、1回目はその課題が見えてくるころまでで終わりなのか。

【荒木係長】

そうである。

【今井委員】

それだと、時間配分だが、皆さんから十分な意見を出してもらふには時間が掛かると思う。初めてこういう経験をする人がいるかもしれない。そうすると、何を書いたらいいのか分からないと思うので、時間配分にはもう少し工夫が必要だと思う。そして、出したものに対して、努力して課題を見つける。その辺の時間配分をもう少し考えてほしい。

【増田会長】

事務局が課題と言ったが、課題ではなく、皆さんが思っていることを自由に出してもらって、「こんなことを思っている」ということを書き出してもらうだけである。そして、出てきたものから、同じような意見の括りを作る。

【泉委員】

課題と言ってしまふから結論を求めてしまふ。

【増田会長】

泉委員が言ったように、1回目では結論を求めない。皆さんが「どういう街にしたい、こういう街が良い」という意見を出し合ひましようという会なので、リーダーになった皆さんはそのように参加者をリードしていただき、まとめていただきたい。

【伊藤委員】

我々は労働災害で「こういう事故が起きた」という時は、課題が出る。それに対して何が問題かとか、それに対する結果とかを考えるが、今回の場合は、そういう話し合いではなく、みんなで揉んで、揉んだ中で今のような話がいっぱい出てくるから、その中

で大事なものは何かが出てくる。

【泉委員】

先ほど、増田会長は重要なことを言ったと思う。奇想天外な話でいい。そうでなければやっていく意味がない。

【池田委員】

「私たちはこういうことを考えていて、皆さんからの意見を集めたい」という働きかけをしないといけないと感じたのだが、そういう理解でよろしいのか。

【増田会長】

そうである。今回、ここまで辿り着くのに3、4回と協議会を重ね、今日は「これで行こう」という最終的な話なので、ここで皆さんと意識の共有が出来ないと混乱してしまう。

【田村雅春委員】

1回目は理解できたが、2回目は何をするのか。

【増田会長】

逆に何をしたらいいと思うか。

【丸山委員】

QC法（Quality control＝品質管理）をやった場合は、みんなで意見を書いて、それについて議論する。その次に、意見ごとにまとめて、その目的に向かって進めていかなければいけない。限られた時間内でその実施主体は市なのか、どこかの団体なのかという所まで追っかけなければいけない。そうしたときに、意見交換で集まった人たちも入って一緒に進めて行くのか、出てきた課題を我々が受け取って、我々が進めて行くのか。その辺はどのように考えているのか。

【竹内副会長】

例えば、2回目に初めて来た人が、1回目に出た意見を見たら、2回目に来た人が「私もこういう意見がある」と思った場合はどうするのか。

【泉委員】

だから、2回では収まらない。2回と指定されているからその中で考えようとしているが、意見交換の中で何が出るか分からない。2回やっても時間が足りないかもしれない。でもやるより仕方ない。

【竹内副会長】

2回目に来た人に1回目の意見を見せて「こういう意見が出ましたが、ほかにも意見はありませんか」と聞いて進めるのはどうか。

【泉委員】

それはやってみないと分からない。1回目の時に全く意見が出なかったらどうしようもない。

チラシに日にちが書いてあるが、一つの案であって、1回目の様子で3回になるのか、2回で終わりになるのか分からない。

【町屋委員】

まず、主催者として何を求めてこの会をするのか、となった時に「それは市民の意見を聞きたいため」となったら、そもそも論でいくと、丸山委員がおっしゃった手法が一番良いのかと思う。先ほども話したように、課題と解決ではないけど、方向性を出し合う場である。これをやる限りは方向性が出ないと、参加者も「1回で終わってしまう会なのか」と思われることが多い。でも、これを突き詰めて、毎回やっていくのもおかしい。次にこれを求めてどうするのかというふうにしていかないと、スタートだけを闇雲にするのは怖い気がする。そういう理由で、チーム分けをしてやったほうが進むということについて、「2回目に来た人はどうするのか」となった時に、例えば、1グループ8人なら、8人の内7人が1回目と同じ人だとすれば、その人たちは間違いなくそのグループに入りたいと思う。2回目もグループ討議するのであれば、その班は1回目と2回目で同じ班。8人の内6人は同じ人がいるのであれば、同じ班のほうが話は進みやすい。そうであれば、2回目から入ってきた人にはそこから好きなグループを選んでもらうのか。2回目の方は自分の意見を出せない代わりに、大洋紙に貼られている意見を見て、この班はこういう傾向の話が多いとか、こういう話をしてきたという方向性が分かるので、その話に入ってもらえるか。同じような話になるのならみんなで話し合いになるか。いろいろな方法が考えられる。

【増田会長】

町屋委員が言うのは、1回目と2回目を同じメンバーでやりたいということである。

2回目の内容を、もう一度元へ戻して最初からやろうとすると、何回やっても同じことになるので、2回目は基本的に1回目と同じメンバーでグループ分けをする。2回目に新しく来た人たちは、それぞれのグループに適宜、偏らないように割り振ります。

2回目の内容は、1回目に出た意見を事務局でまとめてもらい、それを資料として配っ

てもらい、それを見た上で「追加するもの、修正するもの、落とすもの」そういう観点でもう一回話し合いをする。その話をする中で話が深まるということになる。そこで出た意見はどういうふうに持っていかうかというのは、資料のスケジュール表に出ている「9月上旬 課題整理」である。これは委員の皆さんが、出てきた意見を見て「中、長、短期はどうか、これはこういうことが出来る、このことについては予算化に持っていかう、これは平成28年度予算にしよう、平成29年度予算にしよう」ということを課題整理の中でやるという作業計画である。いずれにしても平成28年度の予算に間に合わせたいので、急ぐ場合は、平成28年度に限って、10月下旬までに関係各課と話し合いをしながら、予算書を作るというところまで持っていきたい。そこまですると「地域協議会はどういうことをしているのか」ということが大まかに分かってもらえると思う。

【泉委員】

私は今の説明の中で、2回目以降は会長のおっしゃるとおりだと思う。ただ、丸山委員も言われたが、会社とか団体とか、そういう所に集まる人は会社機関が皆同じで1回でデータが揃う。おそらく、この会に参加していただく方たちも、一般市民のことを考えると、価値観が似通った方たちである。

課題を出してもらい抽出する。そのデータベースを集めるということをして1回でやるとなると時間が少なすぎる。

【町屋委員】

今の話だと、市民の皆さんに集まってもらって課題を出してもらおう。最終的に9月に私達で優先順位を考え、どの意見を取るべきかここで決める。そうであれば市民の皆さんからは意見を出してもらうだけ。そうであれば、1回目と2回目で同じメンバーである意味自体が随分薄くなってくると思う。エリアごとに分けて何か所かでやって、違う人達に来てもらったほうがサンプル数としては多くなるのではないかと思うのが1点。さっきも課題と取組と言ったように、課題と一緒に「だからもっとこうしよう」という取組も出てきてしまう。それをどこまで残すかである。

【増田会長】

2回目の進め方として、「取組の話だからここは発言させない」という訳にはいかない。そういう話も出てくるから、それもある程度取り込みながらまとめていくことだと思う。

今、町屋委員が言ったような、「10月末までもっと開催すればいい」というのは不可能なので、2回やってまとめましょうということである。開催した結果、来年以降も同

じ手法でやりましょうということになれば、順次仕掛けてやっていけばいいと思う。

【町屋委員】

私が1つ目に言いたかったことは、2回とも同じメンバーでやるよりは、そこで議論を深めるというのは分かるが、所詮深めてみたって、この場で結論を求めないのであれば、1回目の内容を2回やったほうがいいのではないか。

【増田会長】

皆さんが心配しているように、1回目は無駄話もあるし、世間話もあるだろうから、当然時間が足りなくなることを想定した上で、同じメンバー、新たなメンバーを加えて2回やろうということである。ただ、2回目の時に一からやるのではなく、前回はこういう意見が出ていると理解した上でもう一回行う。ただ、話し合いは「この意見は無理なのではないか」とか「無理かもしれない、これはこういう方法がある」で止める、というようなやり方をする。例えば雁木の話などは深くすると、どこまでも深くなってしまふから、「雁木の補助金がある」ではなく、「補助金がありそうだ」というところで止める。そうしないと収まりがつかない。皆さんがリーダーになった時にどこで収まりを付けるかということになる。

【今井委員】

そうすると、知識をたくさん持っていないとリーダーは出来ない。

【増田会長】

リーダーがそれを言うのではなくて、そういう意見が出てきたらそこで止めてくださいということである。

— 認識の食い違いを互いに修正 —

【今井委員】

言いたいことは分かるが、今の話では、来られた方にどんどん話をしてもらいましょうということだと思うが、とりあえず例えば雁木のことで色々な話が出てきたら一応聞いておけばいいのか。

【増田会長】

そうである、それ以上のことは求めない。

【丸山委員】

リーダーというのは名前だけで、実際は書記をするだけである。出てきた意見を同じ様な意見の所に張っていくだけである。そうすると結局、紙が多く貼られた所の方向に

向けて話が進んでいくということである。

【小林委員】

このチラシを見て申し込む人は、どんなつもりでいるのかと思う。直江津区地域協議会から何か提案があるのかと思ってくる人もいるだろうし、来られる方の動機が心配である。チラシの下の目的では「まずは、地域住民の皆さんの思いをぜひお聞かせください」と書いてあるが、この意味が伝わっているかどうか。それから、やり方として「ポストイットに書いてください」となったら「こんなことさせられるの」とか、「私はどんなことなのか聞きに来ただけなのに」とか、いろいろな人がいると思う。冒頭で「今回はこうだから、まとめる必要もないので、とにかく思っていることを言ってください、今日はそれで終わりです」と伝え、書記の人が出た意見をメモするということにしないと難しいと思われる。

【町屋委員】

私が最初に思ったのは、1回目は、キャッチボールトークみたいに、何でも好きなことを言ってもらって、そこで出た意見を私たちが書いて、2回目に「こういう意見とこういう意見があった」と話し合ったほうが良いと思っていたけど、好きなことを言ってもらうのと、今回、結論を求めないというところ、皆さんの意見を出すためのポストイットは、実際はしゃべってもらいか書いてもらうかの違いだから、逆に良いと思う。

そのポストイットも実際はハードルが高い。会場に来てテーブルごとに分かれて座るだけでもすごくハードルが高いけど、そこは私たちが丁寧に説明して、「皆さんの意見を聞きたいだけだから、遠慮なく書いてください」とお話するだけ。逆に手を挙げて発言出来ない人もいるから、そういう人にとっては、書くほうが発言しやすいと思う。

【増田会長】

それも含めてポストイットにしたが、小林委員がおっしゃるとおり、追加の意見があった時に追加で書いてもらってもいいが、追加の発言があったら、書記が書いて貼るということ。柔軟にやっていただければいいと思う。

いずれにしても「何かしてください」ではなく、「皆さんの意見を聞きたい」というスタンスを変えてはいけない。

リーダーと言いましたが、進行役なので、誰かが演説を始めたら「ここら辺で止めておきましょう」という、その辺のかじとりをお願いしたい。

ポストイットに書くが、中には「書きたくない」という人がいたらそれはそれでよし

とする。「来たから書きなさい」という訳ではない。そういうイメージで取り組んでいただきたい。

委員の組分けは、事務局に一任するようご了解をいただきたい。私はその中に入らないで、当日欠席があった場合、そこへ入るという扱いにしたいと思っている。

【今井委員】

お聞きしたいのだが、チラシに公募が「30人程度」と書いてある。今、委員のそれぞれ10枚ずつ配っているが、30人以上来たらどうするのか。

【増田会長】

チラシに書かれているのは目安で、少なくとも多くても開催するということである。ただし、協議会として初めて市民の意見を聞く、おそらく、協議会として市民の皆さんの意見を聞くというのは、他の協議会も含めて初めてだと思う。そういう面では、住民の皆さんに協議会に関して関心を持っていただく、たまたま、「直江津のまちづくり」と「新水族博物館」という具体的なものがあるので、呼び掛けやすく、声掛けがしやすい。単に「直江津のまちづくりについて考えましょう」と言ったって、何をすればいいのか分からない世界なので、せっかくの機会に、日常思っていることを素直に希望として言っていただければそれでいい。泉委員が言われているように、真逆の意見も当然出てくる。それはそれでいい。真逆の意見が出て我々が分かればいいことである。そういう趣旨で行きたいと思う。本日、商業・中心市街地活性化推進室が開催する検討委員会の第1回目の会合だが、私たちは広く住民の皆さんの意見を聞くということなので、気持ちはなるべく大勢の人から参加してもらいたいと思っている。あえて、直江津区の人でなくても、関心のある人来てもらい、自由な意見を言ってもらおうということが重要なことだと思っている。

委員の皆さんからなるべく大勢の人にお声掛けいただき、大勢の人から参加してもらいたいという意味合いで10枚配らせていただいた。

【三上委員】

資料に時間配分が細かく出ているが、今、皆さんの話を聞いていると、このとおりにはいかないと思う。

【増田会長】

時間配分については、あくまで事務局が目安として書いたもので、このとおりに進まない。それと、資料の「整理したテーマが長期的～短期的なものか整理する」と「各

グループの大洋紙を見て回る」とあるが、ここまでは出来ないと思う。その時間は取らないで、「次回、また頑張ろう」という感じで解散する。要するに、市民の皆さんが参加出来る雰囲気作りというのが大切だと思う。

【田村雅春委員】

仮に6グループ出来たとする、そうすると、増田会長が抜けるとなると、私たちが全員出席したと仮定して、3人と2人のグループが出来ると思うが、3人の内訳は1人がリーダーで、2人が書記になるのか。

【増田会長】

書記は1人。

【田村雅春委員】

残りの1人はどうなるのか。

【増田会長】

残りは一般参加。だが、あまり深く考えないでいただきたい。

【町屋委員】

これを始めるとしたら、資料の真ん中の「個人の意見をポストイットに書き出す」、「個人の意見をグループ内で発表する」、「共有した意見をテーマごとに分類分けする」で65分間あるのだが、これはフレキシブルな時間でも許されるのか。例えば、司会進行の方が「20分で意見を書いてください」と言っても、20分間ずっと書いていることはないと思われる。逆に言ったら、人の意見を聞いて、「それだ」と思って意見を書く人も結構いると思う。それは融通を利かせてもいいのか。

【増田会長】

人の意見を聞いてから思いつくこともあるので、それは基本的に有りである。それは自由にやってもらって結構である。

【町屋委員】

そうすると、私が進行役であれば、10分くらいで書き終わっている人もいると思う。その人には、発表みたいな感じでやってもらっていいのか。

【泉委員】

書きたい人は書いていけばいいと思う。要は意見を出しやすい雰囲気を作ること。

【町屋委員】

だが、進行がしっかりしていると、「皆さん、ペンを置いてください、次に行きます」という全体進行の場合もある。

【増田会長】

基本的に、全体の進行役を事務局でやってもらうので、概ねの時間が経って、皆さんの手が止まった頃を見計らって「意見が出尽くしたらポストイットを大洋紙に貼る作業に移ってください。まだ書くことがある人はそのまま書いていてください」と言えればいい話である。一行一行セリフを書いてやることではないので、大まかにやっていただきたい。そして、進行役は全体の流れの中でスムーズに進むように気配りをしていただければいいので、参加した皆さんが意見をきちんと言えるように、一人の人が演説を始めないように、そういう気配りが必要だと思うので、その辺に気を付けていただきたい。

(分かりましたと声あり)

まだ、不安が残ると思うので、当日、どうしたらいいか話し合えばいいし、私たちは仲間なので、プレッシャーを掛けることはしない。お互いに助け合いながらやりたいと思う。

- ・事務局へ連絡事項を求める

【荒木係長】

- ・次回の協議会内容について説明
- ・次回協議会：8月7日（金）午後6時～

【増田会長】

若干補足説明すると、商業・中心市街地活性化推進室が主催で行っている地域活性化委員会が本日举行されているが、次回の協議会までに第2回目が行われると思うので、状況を確認したいと思っている。

そして、本日、皆様のお手元に水族館の関係で、総務常任委員会の所管事務調査の資料を配布してある。これに関して、かなり意見が出たようである。議事録があるので、出来次第、皆さんのところへ郵送させていただく。1つ懸念されるのは、地域協議会でもいろいろな意見を言い、基本設計の報告会でも意見を言った。その意見について、「これはこのようにしましょう、このようにしました」という場がないので、その場をどこかで設けたいと思っている。ただ、皆さんが前から御心配されているとおり、私達が聞いた時には「もうそれは終わりました」というふうに事後報告的になったら困るので、そうならないように気を付けていきたいと思っている。それから、もう一つ気になって

いるのは、基本設計の報告会を頸城区の希望館で開催しただけである。直江津区でも開催したいという話を聞いているのだが、具体的にいつ、どこでやるかは聞いていないし、もう一つは、近隣住民の皆さんに、「今度こういうものを造る」ということを、懇切丁寧に説明する必要があると思う。実際に工事が始まれば迷惑が掛かるのだから、そういうことも含めてしっかり説明してほしい。また、皆さんの御意見を聞きながら進めて行きたい。

【小林委員】

総務常任委員会に増田会長と傍聴へ行ってきた。午後からは私だけになり、若干おもしろい質疑が出ていたので報告させていただきたい。

やはり、イルカがどうなるのかという話が出た。議員からの質問に対して、明確に繁殖させていくとは言われなかったが、施設的にはイルカのパフォーマンスプールやイルカが休むプール、その隣にホスピタルプールというのがありイルカの繁殖も視野に入れた設計になっているから繁殖も可能であると言っていた。

【田村雅春委員】

総務常任委員会の資料にある「直江津まちづくり活性化協議会」というのはどういうメンバーなのか。それぞれの長が代表で選出されているのか。

【増田会長】

商業・中心市街地活性化推進室の説明によると、「この人たちにメンバーになってほしい」と言っているが、なるべく興味があって若い人に出てきて欲しいとのことである。

【泉委員】

メンバーは何人も団体が重複しているかもしれない。

【増田会長】

重複していると、20人予定していたのが10人になってしまう。そうすると委員会にならないので、重複しないように20人集まらないと困ると思う。

この会がどこに落ち着くのかというのは、私たちも見ながら進めて行きたいので、進捗状況の報告をいただく。検討委員会で検討してもらったほうが良い問題が出てきたら、そちらに伝えようかと思っている。全く同じことをお互いにやる必要はないことである。

・他に質疑がないか確認

【泉委員】

地域活動支援事業の追加募集の提案状況はどうなっているか。

【荒木係長】

具体的な提案は来ていないが、いくつか相談には来られている状況である。

【増田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。